

令和7年度(2025年度)第2回守山市地域総合センター運営審議会 会議録

1 日時

令和8年(2026年)2月18日(水)午後2時から午後3時45分まで

2 場所

守山市地域総合センター 2階研修室

3 出席者

(1) 委員

委員出席者：宮嶋委員(会長)、植村委員(副会長)、廣瀬委員、石田委員、鈴木委員、十二里委員、尾本委員、藤井委員、中川委員、谷山委員、村上委員、美濃部委員

委員欠席者：玉川委員、吉田委員

(2) 事務局

福井副市長、長谷川部長、森口次長、小寺所長、中嶋係長、古川同和教育指導員、樋上児童厚生員

(3) 関係課

武田人権政策課長、徳田商工観光課係長、木ノ切こども政策課長、田中学校教育課指導主事、西村玉津会館長

4 傍聴者 なし

5 会議内容

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 新委員の紹介

(4) 議題事項

- ・令和7年度(2025年度)守山市地域総合センター事業報告について
- ・施設の現状について
- ・その他 小中高校生対象事業のスライド動画視聴

(5) 閉会

6 発言記録

(1) 令和7年度(2025年度)守山市地域総合センター事業報告について

○委員

自主活動学級について、小・中学校の両方の学級において、講師謝礼のいない講座があるが、これは予算措置によるものなのか他に目的があるのか。

二つ目に、学級に一昨年まではもう少し多岐に渡る分野から講師を招いて学習が実施されていたと記憶しているが、縮小されたように見るがその理由、意図について

伺う。

三つ目に、中学校自主活動学級のうち6講座が「こんな自主活にしたいプロジェクト」になっているが、実施された上で考えられる成果を伺う。

○事務局

プログラムの中で内部講師になっているのは、予算に不足があったものではない。2年前は全部外部講師に依頼をしていましたが、外部講師を呼んで被差別の体験を語ってもらう。こんな差別の実態がある。感想文を書くだけではだめですね。この繰り返しでは、講師料を支払い、話に来てもらい、担当者は一歩引き講師に任し、何かやったような気になってることは良くないと思ったので、自身も勉強し、中学生や小学生と一緒に考えるような取組をと、昨年度は人権センター等に相談に乗ってもらいやってみたいことを考えながら、一緒に講義を行った。今年度は担当講師に職員が半分ぐらい挙がっているが、このような思いから今回のプログラムになり、プロジェクトに取り組んだ。「差別はあかん」というだけでは、やはり反差別の主体者は育たないので、中学生と一緒に取り組むようにプログラムを考え今年度取り組んだ。深めたい、広げたいという思いで実施し、中学生が考えたプロジェクトについては、中学校の協力もあり取組をアップデートしたと認識している。

それが少し退化したと捉えられているのであれば、発信力不足もあるが、こうしたらもっと良くなるのではないか、ここがまだまだ甘いというご意見をいただけたら参考にさせていただく。

○委員

市民啓発として人権講座をしていた時、何のためにやっているのか分からない、聞いてもらっても、開催しても成果が見えてこないということ、ある人に相談した。すると、今日聞いて明日から人生は変わらない。あなたがひと粒でも種をその人の中に残せたら、その人の中で育っていくものだと言われたことがあった。人権学習というのは、そういうところがあると今でも思っている。

もう一つ、自主活動学級は、学校教育の場では出会うことのできないたくさんの人にこの場を提供するというのも大切な目的の一つだと思う。自分の中にいろんな知識を入れて終わるのではなく、発信していくことを大事に考えての今年のプログラムだと思うが、大人が色々なことをしてアウトプットさせなくても、良いものを丁寧に注ぎ続けていけば、いつか溢れ出してくるものではないかなという思いがある。人権講座のアンケートでも思ったが、その場の感想や、思いだけではかなり浅いものになっていくのではないか。良いものをたくさん入れていくということは、答え、正解を求めないで入れ続けてあげられるということが学校以外の場の自主活動学級の一つの利点ではないかと思うので、自主活発足当時の地域の人の願いやその頃の思いなどにもう一度立ち返っていただき、「自主活動学級とは本当は何を求

めるものなのか」を、改めて考え直していただけると良い。

○事務局

発足時の地域の方の思いも大事にしていきたい思いもあり、地域の方のご意見も色々聞きながら考えた中での流れになっている。地域の方から中学生が自主活動学級の中で自主的に活動している姿勢についても前向きなお言葉をいただいている。部落解放研究第33回滋賀県集会で思いや取組を発表するので、ぜひ来ていただきたい。

○委員

自主活青年会は青壮年を対象としているが、一方で小学生、中学生という自主活動があるという流れだが、小、中、高校生、青壮年が繋がり今まで自分が経験したことを次の世代に話かけるという縦の繋がりで何かできるような活動体の流れを作ること一つの方法と思う。

また、人権問題になるが、インターネットやSNSによる誹謗中傷、その中でいじめの問題も出て人権としての差別の問題が出てくる。これは大きい社会問題になっている人権問題の一つとと思っている。若年層の世代がインターネットやSNSを活用して、その子たちが将来を担う人たちになる。そのような世代層に、人権問題に焦点を当てていった方が良いのではないか。罰則規定はなく、侮辱罪で法整備は進んだが、問題は自分の内にあるということ若い世代に働きかけていく活動をしてもらいたい。

○事務局

自主活青年会については、小・中学生で終わりではなく繋がりが大事と思っている。中学校卒業後、高校生、社会人になっても繋がりを持っていく中で継続して実施していく。

ネット上のいじめが青年層での課題という部分についても、自主活動学級を含め今何が必要なのかということも考えた中で事業メニューを考えていく。

○委員

人権、特にインターネットに関していろいろな事象が起こっている。しっかりと事業に組み込みながら考え、自主活動学級の中で子どもたちがさらに見つめてるところもあったと思う。自主活動学級の中で取り上げている内容を学びたく、自主活に何回か参加している。

小学校から中学校にかけて自主活動学校に参加している子どもたちがいて、何かしたいと言い、その延長が「みんJOY」というプロジェクトで、子どもたちが主体的に呼びかけ、色々な動きが子どもたちの中で見え、生徒全体にも響き、呼びかけによって、みんな応えたということがあった。

単発で終わらず続けていきたい。また、自主活動学級の中で、高校生集会に参加し

た高校生の話を中学生が聞いてくれていたが、その場でも「こんなお兄ちゃんお姉ちゃんになっていかなあかな」等の思いを持ってきていたと思うと、このような活動が今の繋がりというところになると思う。

(2) その他

○委員

小学校の段階では出会いを大切にしたい。自主活動学級をしてもらえることはありがたい。今年の学びについては、知識、理解という点ではすごく子ども達にとって良かったと思うが、感じるというところが小学生はいろいろ経験することで次に繋がるので、そのようなところに重点を置いていただきたい。教員は教員のカラを脱いだ時に一個人としてどうしていくのか考えていくべきだと思う。

小学校は今6年生が卒業に向けて色々な取組をしている。5年生が中心になりこれまでお世話になった6年生を送り出すために1～4年生にみんなで遊ぼう、飾り付けをしよう、6年生を送る会を盛り上げよう等感謝の気持ちを伝えたい思いで取り組んでいる。6年生は今まで学んできてお世話になった学校に恩返しをしたいということで、ボランティア活動をしたり、何か残せるものはないかと贈り物を作るプロジェクトをしてくれたり、お互いがそれぞれ感謝の気持ちを持っているのでそういう思いを大切にしていきたい。